

対応方針（2025プラン）について

(別添)

J A 広島総合病院 公的医療機関等2025プラン

令和5年 4月 策定

【広島総合病院の基本情報】

医療機関名：広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
 開設主体：広島県厚生農業協同組合連合会
 所在地：広島県廿日市市地御前1丁目3番3号

病床数	一般病床：531床		
施設の状況	建物延面積：33,761.24㎡		
主な公的指定	・病院群輪番制病院 ・救急指定病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・へき地医療拠点病院	・災害拠点病院 ・臨床研修指定病院 ・DPC 対象病院	・脳死臓器提供病院 ・地域医療支援病院 ・地域救命救急センター
併設事業所	・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所		
認定	・日本医療機能評価機構（区分一般病院 2 3rdG: Ver. 2.0） ・DMAT 指定医療機関（災害派遣医療チーム）		
主な施設基準	・一般病棟入院基本料（7 対 1） ・超急性期脳卒中加算 ・診療録管理体制加算 1 ・急性期看護補助体制加算(25 対 1) ・重傷者等療養環境特別加算 ・急性期充実体制加算 ・救急医療管理加算	・妊産婦緊急搬送入院加算 ・医師事務作業補助体制加算 1（15 対 1） ・療養環境加算 ・救命救急入院料 1 ・特定集中治療室管理料 3 ・小児入院医療管理料 4	

許可病床数：531床（高度急性期 260床、急性期 271床、回復期 0床、慢性期 0床）
 ※稼働病床数も同値

（内 訳）

1. 高度急性期機能病棟83 西3階病棟（ICU） 8床
 2. 高度急性期機能病棟89 HCU 8床
 3. 高度急性期機能病棟03 東3階病棟 46床
 4. 高度急性期機能病棟07 東7階病棟 52床
 5. 高度急性期機能病棟84 西4階病棟 36床
 6. 急性期機能病棟 西4階病棟 10床
 7. 高度急性期機能病棟85 西5階病棟 55床
 8. 急性期機能病棟05 東5階病棟 52床
 9. 急性期機能病棟04 東4階病棟 43床
 10. 高度急性期機能病棟86 西6階病棟 55床
 11. 急性期機能病棟88 西8階病棟 60床
 12. 急性期機能病棟87 西7階病棟 55床
 13. 急性期機能病棟06 東6階病棟 51床
- 高度急性期260床, 急性期271床

診療科目：

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科、膵・胆道内科、食道・胃腸内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化器外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科、

病理診断科
職員数：

職種	人数
医師	141
看護師	629
准看護師	2
助産師	26
薬剤師	36
放射線技師	26
臨床検査技師	52
理学療法士	13
作業療法士	5
言語聴覚士	4

職種	人数
管理栄養士	10
臨床工学技士	15
歯科衛生士	3
視能訓練士	3
社会福祉士	5
公認心理士	1
医師事務作業補助者	28
看護助手	24
事務その他	64
合計	1087

(令和5年4月1日時点)

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○ 将来人口推計等

広島西二次保健医療圏における将来推計人口は、2020年の141,525人から2025年には139,271人へ、2040年には128,639人まで減少する。

また、65歳以上の高齢者人口は2040年まで上がり続けるが、75歳以上では2035年をピークに下がり始めると予測されている。

	2020	2025	2030	2035	2040
総人口①	141,525	139,271	136,359	132,801	128,639
65歳以上人口②	45,410	47,001	47,000	46,914	47,781
地域人口に対する割合 (②/①)	32.1%	33.7%	34.5%	35.3%	37.1%
75歳以上人口③	22,841	27,635	30,046	30,247	29,143
地域人口に対する割合 (③/①)	16.1%	19.8%	22.0%	22.8%	22.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月推計）

○ 医療需要の推移

厚生労働省の令和2年患者調査による広島県の患者受療率と将来人口推計から試算した将来推計入院患者数の総数は、2025年以降も増加するが2035年をピークに減少に転じる見込みである。

広島西圏 将来推計入院患者	患者推計(人/日)					増減(人)				
	2020	2025	2030	2035	2040	20-25	25-30	30-35	35-40	
総数	1,820	1,953	2,057	2,137	2,134	133	104	80	▲3	
I 感染症及び寄生虫症	12	14	15	16	17	2	1	1	1	
II 新生物<腫瘍>	160	168	171	170	168	8	3	▲1	▲2	
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	3	4	5	5	0	1	1	0	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	37	41	45	49	50	4	4	4	1	
V 精神及び行動の障害	334	338	340	338	334	4	2	▲2	▲4	
VI 神経系の疾患	167	184	195	204	203	17	11	9	▲1	
VII 眼及び付属器の疾患	9	10	11	9	9	1	1	▲2	0	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1	1	2	2	2	0	1	0	0	
IX 循環器系の疾患	242	266	286	306	307	24	20	20	1	
X 呼吸器系の疾患	89	99	108	120	121	10	9	12	1	
XI 消化器系の疾患	66	72	78	80	79	6	6	2	▲1	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	8	8	9	11	12	0	1	2	1	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	100	109	116	119	119	9	7	3	0	
XIV 腎尿路生殖系系の疾患	73	80	85	90	90	7	5	5	0	
XV 妊娠、分娩及び産後	20	18	17	17	17	▲2	▲1	0	0	
XVI 周産期に発生した病態	7	6	6	6	6	▲1	0	0	0	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	1	1	1	1	1	0	0	0	0	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	14	16	17	18	2	2	1	1	
IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	210	231	248	266	268	21	17	18	2	
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5	5	6	5	6	0	1	▲1	1	
(悪性新生物<腫瘍>) (再掲)	142	150	153	151	149	8	3	▲2	▲2	
糖尿病	20	22	23	25	25	2	1	2	0	
急性心筋梗塞 ※	14	15	16	16	15	1	1	0	▲1	
脳梗塞	88	98	106	114	113	10	8	8	▲1	

患者数：患者調査の受療率(令和2年10月都道府県編閲覧第33表(その2))×医療圏内の人口で算出

※都道府県別の疾病小分類がないため全国データで計算

○ 医療提供体制の現状

【医療機関数・病床数(病院)】

区分	病院施設数		病院病床数		
	一般病院	精神科病院	一般病床	療養病床	精神病床
広島西	13	1	2,483	1,127	476

※出典：「医療施設調査」（令和3年）

【医療機関数・病床数（一般診療所数）】

区分	施設数	病床数	
		有床診療所	無床診療所
広島西	124	4	120

区分	施設数	病床数	
		一般病床	療養病床
広島西	124	48	6

※出典：「医療施設調査」（令和3年）

○ 医療機能別の状況

地域医療構想による広島西圏域の必要病床数と令和3年度の病床機能報告を比較すると、高度急性期114床、急性期99床、慢性期449床、現状の方が多く、回復期は、280床少なくなっている。

また、レセプト算定件数による流入率・流出率が他圏域と比較すると高く、中でも慢性期の流入率と回復期の流出率が高い状況にある。

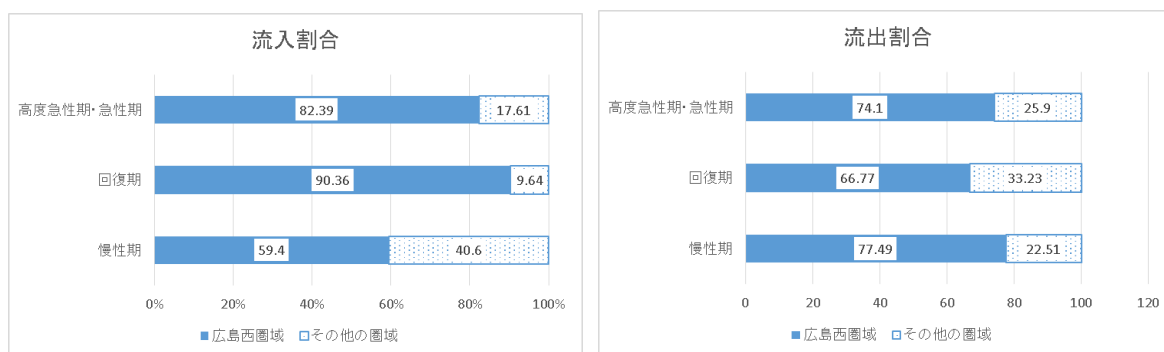
慢性期の流入率には、筋ジストロフィー患者や重度障害児・者を県内全域から受け入れている病床が約300床あることが影響しており、医療提供体制を検討する際にはこの点に考慮が必要である。

【機能別病床数】

区 分	必要病床数 (令和7年)	病床機能報告 (令和3年度) ※	差 引
高度急性期	156	270	114
急性期	410	509	99
回復期	515	235	▲280
慢性期	478	927	449
計	1,559	1,941	382

※報告後の転換等一部修正。休床18床を除く。

【流入・流出の状況】

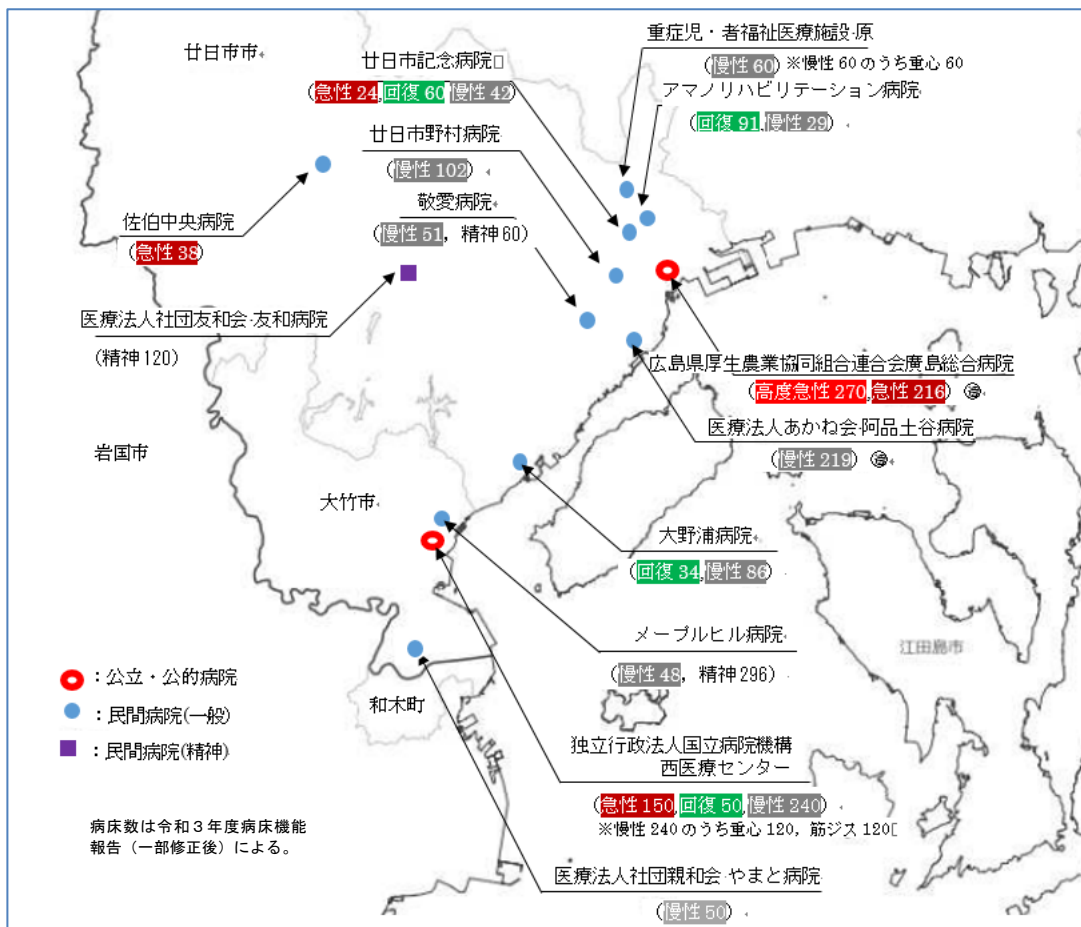


流入割合は、レセプトデータにより広島西圏域に所在する医療機関に入院した人の住所地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

流出割合は、レセプトデータにより住所地が広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析（令和2年度データ）

【広島西保健医療圏の病院位置図】



② 構想区域の課題

○ 医療機能別の病床

高度急性期・急性期は、棲み分けが進んでいる疾病については周辺地域の医療機関と引き続き連携を進めるとともに、広島保健医療圏に新たな整備が検討されている「高度医療・人材育成拠点」の影響を考慮しながら、脳卒中領域など圏域内での速やかな対応が必須の高度医療や救命救急体制を強化する必要がある。

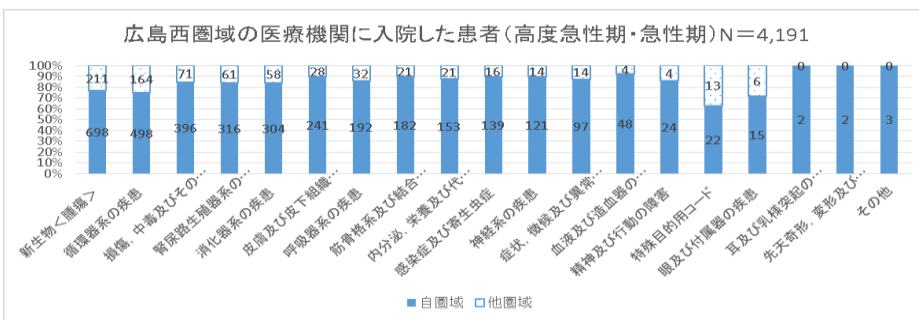
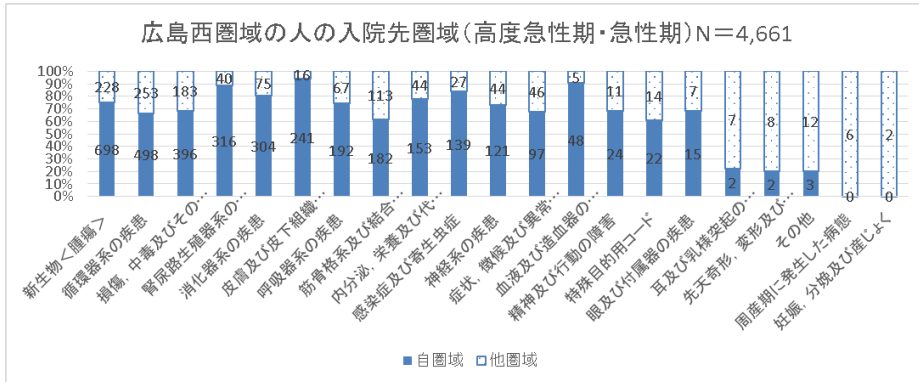
回復期は、広島西圏域の住民の入院レセプト4,014件のうち、広島西圏域の医療機関の入院レセプトは2,966件であり病床の不足が推測されることから、病床の確保が課題となっている。

○ 人材の確保

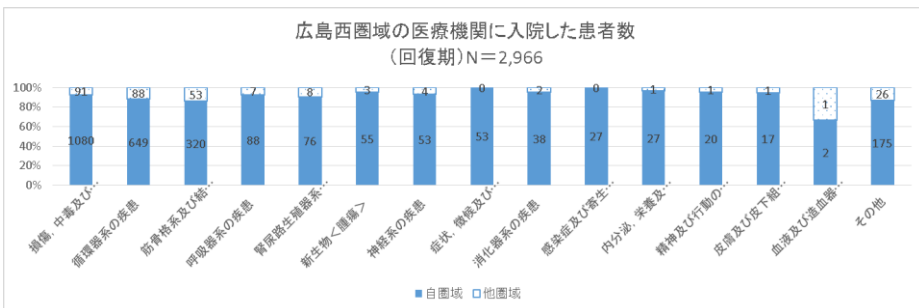
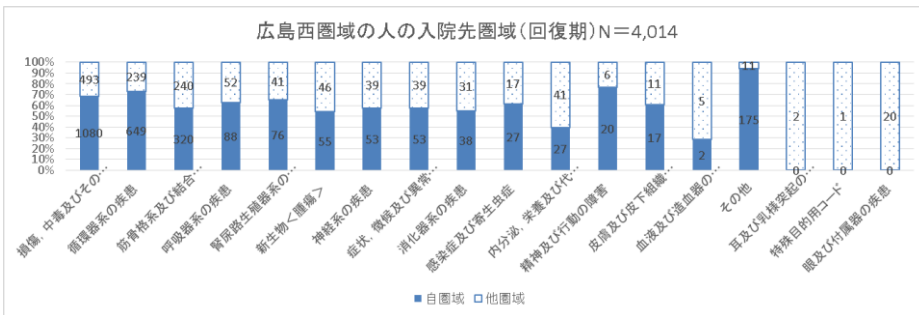
医療需要は2035年まで増加する見込みである一方で、生産年齢人口の減少に伴い医療人材の確保が困難になっている。

また、2026年（令和6年）から医師の時間外規制が開始され、医師の働き方改革への対応を着実に進める必要がある。

【高度急性期・急性期】



【回復期】



広島西圏域の人の入院先圏域は、レセプトデータにより住所地が広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 広島西圏域の医療機関に入院した患者数は、レセプトデータにより広島西圏域の医療機関に入院した人の住所地を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

③ 自施設の現状

○病棟別の病床稼働（平均在院日数と稼働率）

1. 西3階病棟（ICU）	特定集中治療室管理料3	14.5日	56.2%	
2. HCU	救命救急入院料1	3.3日	43.5%	
3. 東3階病棟	急性期一般入院料1	13.3日	83.6%	
4. 東7階病棟	急性期一般入院料1	17日	85.8%	
5. 西4階病棟	急性期一般入院料1	8.5日	68.5%	
6. 西5階病棟	急性期一般入院料1	13.6日	84.6%	
7. 東5階病棟	急性期一般入院料1	15.9日	78.2%	
8. 東4階病棟	急性期一般入院料1, 小児入院医療管理料4	8.7日	84.8%	
9. 西6階病棟	急性期一般入院料1	14.9日	81.9%	
10. 西8階病棟	急性期一般入院料1	15.6日	14.4%	
11. 西7階病棟	急性期一般入院料1	14.7日	88.5%	
12. 東6階病棟	急性期一般入院料1	7日	0.3%	
		全 体	11.2日	67.4%

○時間外・休日・夜間診療実績

合計3,296名 ※加算算定ベース

（うち、廿日市休日夜間急患センター：内科2,018名 外科293名）

○救急医療

救急車受け入れ件数 令和4年度 4,134件（うち夜間休日搬送受入件数 2,640件）

時間外等加算割合（休日・夜間・深夜加算算定件数（初診）/初診料算定件数）14.9%など

○周産期医療

ハイリスク分娩管理加算 年間198件, 分娩件数 年間376件, 母体搬送受入件数 年間0件。

○小児救急医療

乳幼児休日・夜間・深夜加算算定件数（初診） 年間45件,

乳幼児加算初診料算定件数 年間521件, など

○自施設の担う新興感染症等対応

新型コロナウイルス感染症に関しては、致死率や重症化率が低いことから、感染症分類の変更後において、その重症度や入院主訴となるその他の疾患の状況に応じた対応をとることとしている。

○手術の実施状況（手術室にて実施）

平成29年度	5,723件	平成30年度	5,418件	平成31年度	5,513件
令和2年度	5,082件	令和3年度	5,118件	令和4年度	4,923件

④ 自施設の課題

(1) 高度医療への対応

- ・当院は広島県西部最大の急性期総合病院であり、5疾病5事業において基幹病院、専門病院としての機能を果たしているが、精神医療については医師確保が難航していることから、安定した提供体制が難しい状況である。
- ・手術に関しては、コロナ禍において件数は減少しているものの、感染症病床の確保等で一般診療の制限が余儀なくされていることを考慮すると（実稼働病床当たりの手術件数に置き換えると）依然として高水準である。
- ・整形外科は脊柱・脊椎などの領域において広島県内でも圧倒的なシェアを占めており、廿日市市外からも多くの患者を受入れている。
- ・消化器内科は胃瘻に対する治療や内視鏡を用いた低侵襲な治療など、先進的な医療を提供している。

(2) 救急医療への対応

- ・地域救命救急センターとしての救急医療における地域貢献度は高い状況にあり、広島西医療圏の救急搬送患者の約6割以上（広島市への搬出を除く）を当院で受け入れている。
- ・時間外の小児救急は舟入市民病院（広島市）が受け入れている。
- ・令和2年に廿日市休日夜間急患センターを開設し、市内の休日夜間の初期救急医療を広く担っている。
- ・特に、緊急性の高い脳卒中、急性心筋梗塞をはじめとした急性期医療については対応可能な医療機関が限られていることから、院内での病床利用の効率化を図るとともに、近隣の回復期や慢性期を担う医療機関との連携を強化することで、常に受け入れ可能な体制の確保が求められている。

(3) 地域完結型医療の提供、地域医療の課題

- ・地域包括ケアシステムを機能させるためには、高度急性期から急性期、回復期、慢性期、在宅医療へと切れ目のない医療の提供に向けた医療機関同士の連携が必要であり、また、同様に医療と介護においても制度間および施設間の連携が必要である。
- ・当医療圏のある広島西地域は広く、都市型(3)、団地型(2)、中山間地域型(2)、島しょ・沿岸部型(1)の8つの日常生活圏域があり、地理的な事情に合わせて、医療ニーズや医療資源にもそれぞれ特徴があるため市町主体の取り組みを推進することが必要である。
- ・今後、高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を持つ患者や認知症患者が増加する見込みである。
- ・分娩に対応できる施設が当院の他に廿日市市内で当院を含め2施設のみであり、現状の受け入れ体制を維持していくためにも、診療体制や機能の検討が必要である。

(4) 地域における連携体制の整備

- ・医療機関で医療情報のネットワーク化が進められているが、今後、医療DXが政府主導で進められていく中、診療情報の共有が促進され、より広範なネットワークの構築が可能になることから、デジタル化に即した具体的な医療介護連携を模索する必要がある。

(5) 医療ニーズに対応した施設、設備

- ・診療科によっては手術ニーズが供給側を上回ることもあり、手術を速やかに実施できない状況が発生している。また、救急患者の緊急手術対応も困難なケースがあり、広島市内等へ患者を搬送せざるを得ない場合がある。
- ・がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療を行うことは当然ながら最近ではがんゲノム医療についてはニーズが高まっていることから患者の状況に応じて様々な治療の選択肢を設けておく必要がある。

- ・診察室・面談室でのプライバシー保護や院内通路、各種部門でのユニバーサルデザインへの配慮が求められている。
- ・制度的にも技術的にもオンライン診療が可能となっていることから、官民一体となってその普及に努め、へき地などの医療難民を減らす取り組みも今後の課題である。

(6) 災害医療の提供体制の整備

- ・当該地域は芸陽地震や南海トラフ地震の発生や、それに伴う津波災害等の二次災害の発生が危惧されている状況にある。
- ・東日本大震災や熊本地震などの大規模災害の発生を受け、近年全国的に病院の耐震化対策の重要性が高まっている。
- ・最近では新型コロナウイルス感染症のような新興感染症についても災害クラスの対応が求められることもあり、様々な対応方法を検討していく必要がある。

(7) 在宅医療と介護との連携

- ・高齢化に伴い、患者の増加が見込まれる中で、医療費、医療資源の適正化のためには、病院の機能分化と連携だけでなく、急性期、回復期の治療を終えた患者が、できるだけ住み慣れた地域で生活しながら療養するための在宅医療の充実が求められている。
- ・今後、医療と介護の境界線がますます流動化し、これまで以上に、住み慣れた地域で必要な医療と介護サービスが継続的・一体的に受けられる体制を構築していくことが課題となっている。
- ・急性期病院においても、地域包括ケアシステムの構築に向けて、回復期、慢性期・在宅を担う後方機関への転院や在宅復帰に向けたシームレスな連携を促進するための、積極的な関与が一層求められている。
- ・コンパクトシティの実現に向けて、「地域医療拠点等整備事業」では廿日市市が整備予定する事業として、当院の隣地へ在宅診療ステーションなど福祉機能の整備が進んでいる。また、地域サービス機能として、地域包括支援センターや行政窓口機能などの整備も進んでいる。
- ・当院の医療福祉支援センターでは、訪問看護と居宅介護のほか、入院患者に対して他の医療機関への転院や在宅復帰などに向けたサポートを実施している。
- ・行政と医療が協働するコンパクトシティの実現に向けて、廿日市市・当院が実施する事業をサービス利用者である地域住民の立場で、提供体制も含め、どのように連携していくかが課題となっている。

(8) 疾病予防機能

- ・がん、急性心筋梗塞、脳卒中の3大死因や糖尿病は、いずれも加齢や生活習慣を起因とするものであり、高齢化が進む中、日頃から、食生活や運動等の生活習慣の改善、定期的な健康診断等による早期発見・早期治療が今後ますます重要となっている。
- ・手術前にリハビリテーションを実施する、所謂「予防的リハビリテーション」の実施にも力を入れている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

(1) 高度医療の充実

- ・県西部の基幹病院として、引き続き、最良で最善の高度先進医療を提供する。
- ・地域救命救急センター、糖尿病センター、内視鏡センターなどの先進医療の拡充とともに、大学病院との共同研究を行い先進医療の発信拠点となることを目指す。

- ・地域の高齢化に伴い、増加が見込まれる心・血管疾患、脳血管疾患、各種がん疾患に対する医療需要への対応と治療方法の充実が重要課題である。特に、がん医療については、がん診療連携拠点病院として地域の中心的な役割を担っている。これら増加が見込まれる地域医療需要に適用できるよう、体制及び治療方法の充実に向けた取り組みを推進する。
- ・令和6年の新棟完成及び令和8年の既存棟の大幅改修により、最新の医療機器等を用い、高度医療への取り組みを加速させる。

(2) 救急医療、へき地医療への対応

- ・住民の期待が大きい救急医療については、緊急手術の増加を見越して、手術室の拡充を図り、引き続き地域救命救急センターとして地域へ貢献する。
- ・地域救命救急センターと廿日市休日夜間急患センターを運営し、機能的連携を図ることで、一次から二次、三次までのER型救急医療を提供できるような受入体制を確保する。
- ・救急医療に対する地域住民のアクセスの改善を図るとともに、地域住民のみならず救急医療に従事する医療関係者、救急隊員なども安心かつ安全な救急医療を提供できる環境を構築する。
- ・小児救急に関しては、時間内については対応しているが、時間外の多くは市外の舟入病院が診療を担当している。時間外における小児救急のなかでも、一次救急については対応するように、関係機関との協議を行っているが、実現は難しい状況である。
- ・廿日市市北部の山間地域あるいは南部の島嶼地域の迅速な患者搬送、脳卒中や急性心筋梗塞などの発症後の迅速な対応が求められる疾患を見据え、令和6年度完成の新棟にはヘリポートを設置する。

(3) 地域医療支援

- ・地域完結型医療提供体制の構築に向けて、各診療領域における専門性の発揮や横断的な診療連携によるチーム医療の推進により、引き続き幅広い診療領域に対応した医療を提供していく。
- ・地域において今後、医療提供体制が課題となる分娩機能や、地域の健康課題となっている糖尿病対策など、地域で不足または課題となっている診療領域については、地域内の他の医療機関などと引き続き綿密な連携を図りながら、安心安全な医療提供体制の確保と、地域の健康水準の向上に努める。また、地域完結型医療提供体制の構築に向けて、当院と地域の医療機関との更なる連携の強化が求められている。患者の紹介・逆紹介だけでなく、日常的な意見交換や交流の場づくりを通じて、地域の医療機関や医師会との連携を一層深めていく。

(4) 災害拠点病院としての機能

- ・災害拠点病院として、災害時においても安心して医療提供ができる基盤を整備するため、新しく整備する建物は耐震性能が高い建物構造とし、多数の傷病者の受け入れに対応できるスペース・設備などを整備する。
- ・大規模災害時に患者を受け入れられるようヘリポートを設置する。
- ・発生時に被災地への派遣対応が可能である。大規模災害時等に迅速な救護活動を実施できるよう、引き続きDMATの体制強化に努める。
- ・新型コロナウイルス感染症のような新興感染症への対応については、コロナ禍にて蓄積したノウハウや進めた設備整備により対応可能な範囲を拡大していく。

(5) 在宅医療と介護の連携

- ・地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・福祉・保健機能の一体整備を図り、地域住民の視点でシームレスな連携を目指した先進的な取り組みが進められている。
- ・行政と医療が協働するコンパクトシティの実現に向けて、廿日市市が実施する事業と、当院の医療福祉支援センターが有する機能の効果的な連携（体制面・施設面）により、地域住民などが利用しやすいワンストップサービスを提供する。
- ・入院医療と在宅医療、医療と介護の連携強化のため、医療機関と市（地域包括支援センター）との連携体制の強化を図る。
- ・訪問看護ステーション、居宅介護事業所等の提供サービスのさらなる質の向上を推進する廿日市市の特徴的な活動である専門職ネットワーク組織「廿日市市五師士会」による医療・介護・予防・住居・生活支援をつなぐ事業を推進する。
- ・在宅医療支援拠点の整備、在宅医療推進医の育成、訪問看護師の育成を支援する。
- ・在宅療養診療所の機能強化を推進し、関係機関と連携して患者の急変に対応できる体制の整備と関係医療従事者の負担軽減を図る。
- ・厚生労働省の施策では、地域がん診療拠点病院としての大きな役割の1つとして、緩和ケア医療の充実が求められている。自宅での緩和ケアを希望する患者のため、病院・診療所（在宅療養支援病院・診療所など）、介護保険事業症などの連携による、在宅緩和ケア体制の充実を推進する。

(6) 疾病予防機能の充実

- ・生活習慣、高齢化を原因とする疾患が増加する中、日常的な健康管理と健康のチェック、疾病の早期発見のための健康診断が重要となっている。
- ・現在、当院が設置している健康管理センターでは、全国健康保険協会制度を利用した職員健診を中心に実施している。センターの拡充を図ることにより、巡回健診として医師会と連携し「あいプラザ」「さえき文化センター」などで実施している住民健診、職員健診を受診者が受診日を自由に指定できるよう利便性の向上を図るとともに施設内健診にて受入れることにより、廿日市市の健診受診率の向上に寄与する。
- ・二次健診の更なる充実を図るとともに、健診結果で異常が見つかった受診者を早期治療につなげられるような取り組みを進める。
- ・人間ドックについては、脳ドックや膝ドックなど、メニューの充実を図り、さまざまなニーズに対応できるような環境を整備する。
- ・今後の高齢化の進展に伴い、加齢により身体機能が低下した患者の増加が見込まれている。そのため、がん患者等を中心に、手術による各種身体機能の低下に備え、手術前に筋力トレーニングを実施する予防的リハビリテーションの拡充に取り組む。

② 今後持つべき病床機能

当院は引き続き高度急性期、急性期医療を中心に地域における役割を果たす。

③ 新興感染症等対応について

新型コロナウイルス感染症に関しては、致死率や重症化率が低いことから、感染症分類の変更後において、その重症度や入院主訴となるその他の疾患の状況に応じた対応をとることとしている。

③ 働き方改革への対応について

- ・ 救急・集中治療科についてはB水準、それ以外はA水準を進める予定である。タスクシェア・シフトなど他職種との連携を密に実施しなければ基準を超過する可能性もあるためPDCAサイクルにて改善を継続していく

⑤ 建物の建替え、改修、高額医療機器の購入について

- ・ 新棟を建設中。令和6年3月竣工予定（8階建て、屋上にヘリポートあり）
- ・ 令和6～7年度に既存棟（西棟・東棟）を改修予定。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	260	→	260
急性期	271		271
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	531		531

<具体的な方針及び整備計画>

・年次スケジュール

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2022年度	○自施設における合意形成に向けた協議		<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">保健医療計画見直し</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">第8次保健医療計画</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">医師の働き方改革</div> </div>
2023年度		○3月新棟竣工	
2024年度		○5月新棟病棟稼働 ○6月新棟全体稼働 ○既存棟改修施工業者選定	
2025年度		○既存棟改修工事実施	

【4. その他】

(自由記載)

特に無し。

独立行政法人国立病院機構
広島西医療センター
公的医療機関等2025プラン

令和5年2月 策定

【広島西医療センターの基本情報】

医療機関名：独立行政法人国立病院機構広島西医療センター

開設主体：独立行政法人国立病院機構

所在地：広島県大竹市玖波4丁目1番1号

許可病床数：440床

（病床の種別）一般

（病床機能別）急性期 150床 慢性期 240床 回復期 50床

稼働病床数：440床

（病床の種別）一般

（病床機能別）急性期 150床 慢性期 240床 回復期 50床

診療科目：内科、*精神科、脳神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌・代謝内科
呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、腎臓内科、総合診療科
小児科、外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、放射線科、病理診断科、麻酔科、*アレルギー科
*リウマチ科、リハビリテーション科、歯科
（*は休診中 総合診療科、病理診断科は、院内標榜）

職員数：637人（令和5年2月1日現在）

【内訳】	医 師	常勤	54人	非常勤	1人
	看 護 師	常勤	342人	非常勤	10人
	コメディカル	常勤	76人	非常勤	6人
	そ の 他	常勤	61人	非常勤	87人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○ 将来人口推計等

広島西二次保健医療圏における将来推計人口は、2020年の141,525人から2025年には139,271人へ、2040年には128,639人まで減少する。

また、65歳以上の高齢者人口は2040年まで上がり続けるが、75歳以上では2035年をピークに下がり始めると予測されている。

	2020	2025	2030	2035	2040
総人口①	141,525	139,271	136,359	132,801	128,639
65歳以上人口②	45,410	47,001	47,000	46,914	47,781
地域人口に対する割合(②/①)	32.1%	33.7%	34.5%	35.3%	37.1%
75歳以上人口③	22,841	27,635	30,046	30,247	29,143
地域人口に対する割合(③/①)	16.1%	19.8%	22.0%	22.8%	22.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月推計）

○ 医療需要の推移

厚生労働省の令和2年患者調査による広島県の患者受療率と将来人口推計から試算した将来推計入院患者数の総数は、2025年以降も増加するが2035年をピークに減少に転じる見込みである。

広島西圏域 将来推計入院患者	患者推計(人/日)					増減(人)				
	2020	2025	2030	2035	2040	20-25	25-30	30-35	35-40	
総数	1,820	1,953	2,057	2,137	2,134	133	104	80	▲3	
I 感染症及び寄生虫症	12	14	15	16	17	2	1	1	1	
II 新生物<腫瘍>	160	168	171	170	168	8	3	▲1	▲2	
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	3	4	5	5	0	1	1	0	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	37	41	45	49	50	4	4	4	1	
V 精神及び行動の障害	334	338	340	338	334	4	2	▲2	▲4	
VI 神経系の疾患	167	184	195	204	203	17	11	9	▲1	
VII 眼及び付属器の疾患	9	10	11	9	9	1	1	▲2	0	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1	1	2	2	2	0	1	0	0	
IX 循環器系の疾患	242	266	286	306	307	24	20	20	1	
X 呼吸器系の疾患	89	99	108	120	121	10	9	12	1	
X I 消化器系の疾患	66	72	78	80	79	6	6	2	▲1	
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	8	8	9	11	12	0	1	2	1	
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	100	109	116	119	119	9	7	3	0	
X IV 腎尿路生殖系系の疾患	73	80	85	90	90	7	5	5	0	
X V 妊娠、分娩及び産じょく	20	18	17	17	17	▲2	▲1	0	0	
X VI 周産期に発生した病態	7	6	6	6	6	▲1	0	0	0	
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	1	1	1	1	1	0	0	0	0	
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	14	16	17	18	2	2	1	1	
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	210	231	248	266	268	21	17	18	2	
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5	5	6	5	6	0	1	▲1	1	
(悪性新生物<腫瘍>)(再掲)	142	150	153	151	149	8	3	▲2	▲2	
糖尿病	20	22	23	25	25	2	1	2	0	
急性心筋梗塞 ※	14	15	16	16	15	1	1	0	▲1	
脳梗塞	88	98	106	114	113	10	8	8	▲1	

患者数：患者調査の受療率(令和2年10月都道府県編閲覧第33表(その2))×医療圏内の人口で算出

※都道府県別の疾病小分類がないため全国データで計算

○ 医療提供体制の現状

【医療機関数・病床数(病院)】

区分	病院施設数		病院病床数				
	一般病院	精神科病院	一般病床	療養病床	精神病床		
広島西	13	12	1	2,483	1,127	880	476

※出典：「医療施設調査」(令和3年)

【医療機関数・病床数（一般診療所数）】

区分	施設数		病床数		
	有床診療所	無床診療所		一般病床	療養病床
広島西	4	120	54	48	6

※出典：「医療施設調査」（令和3年）

○ 医療機能別の状況

地域医療構想による広島西圏域の必要病床数と令和3年度の病床機能報告を比較すると、高度急性期114床、急性期99床、慢性期449床、現状の方が多く、回復期は、280床少なくなっている。

また、レセプト算定件数による流入率・流出率が他圏域と比較すると高く、中でも慢性期の流入率と回復期の流出率が高い状況にある。

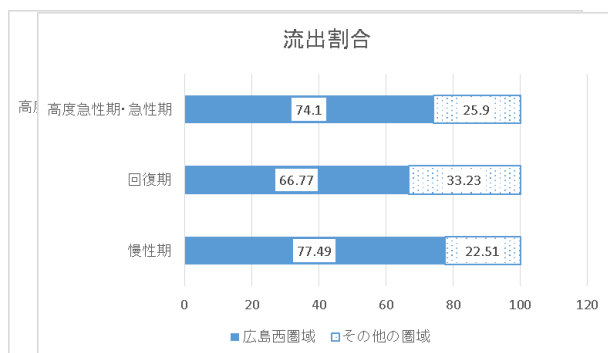
慢性期の流入率には、筋ジストロフィー患者や重度障害児・者を県内全域から受け入れている病床が約300床あることが影響しており、医療提供体制を検討する際にはこの点に考慮が必要である。

【機能別病床数】

区 分	必要病床数 (令和7年)	病床機能報告 (令和3年度) ※	差 引
高度急性期	156	270	114
急性期	410	509	99
回復期	515	235	▲280
慢性期	478	927	449
計	1,559	1,941	382

※報告後の転換等一部修正。休床18床を除く。

【流入・流出の状況】

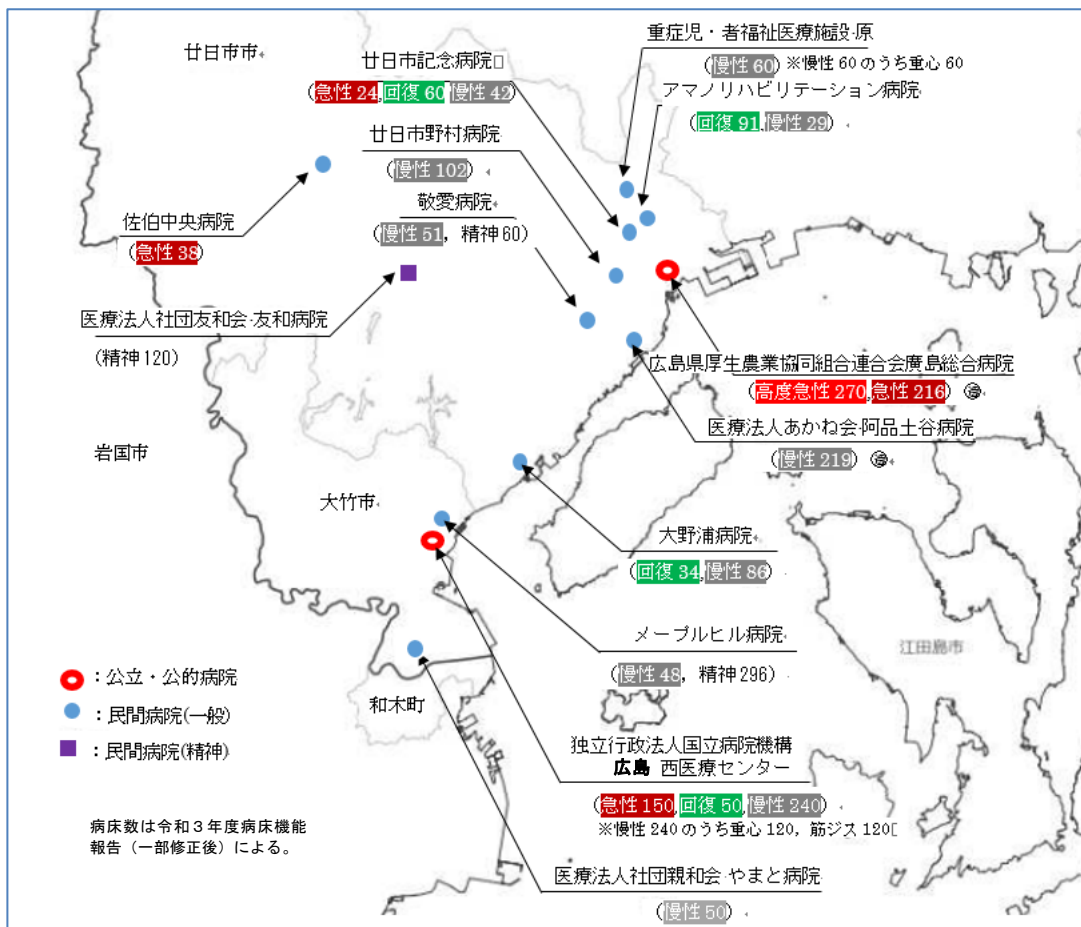


レセプトによる分析（令和2年度データ）

流入割合は、レセプトデータにより広島西圏域に所在する医療機関に入院した人の住所地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

流出割合は、レセプトデータにより住所地在広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を医療機能別に広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

【広島西保健医療圏の病院位置図】



② 構想区域の課題

○ 医療機能別の病床

高度急性期・急性期は、棲み分けが進んでいる疾病については周辺地域の医療機関と引き続き連携を進めるとともに、広島保健医療圏に新たな整備が検討されている「高度医療・人材育成拠点」の影響を考慮しながら、脳卒中領域など圏域内での速やかな対応が必須の高度医療や救命救急体制を強化する必要がある。

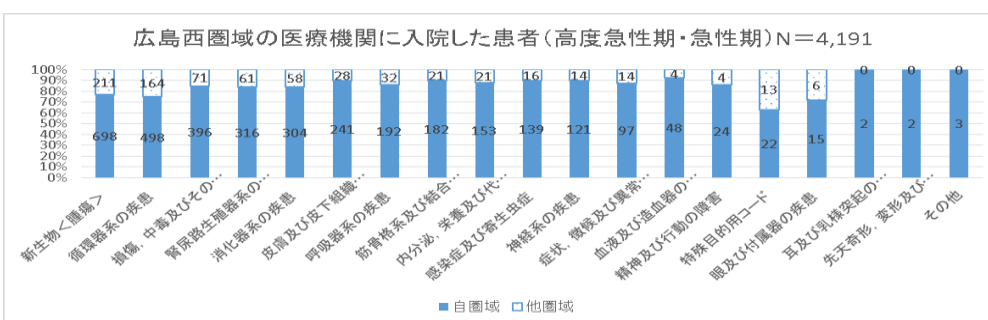
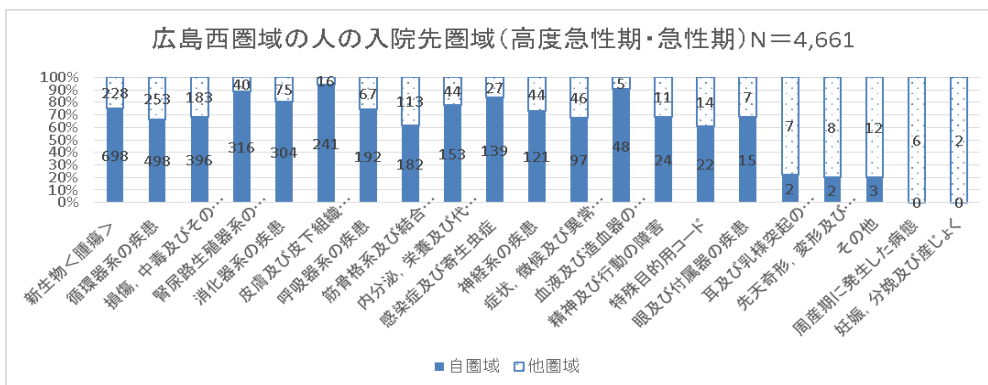
回復期は、広島西圏域の住民の入院レセプト4,014件のうち、広島西圏域の医療機関の入院レセプトは2,966件であり病床の不足が推測されることから、病床の確保が課題となっている。

○ 人材の確保

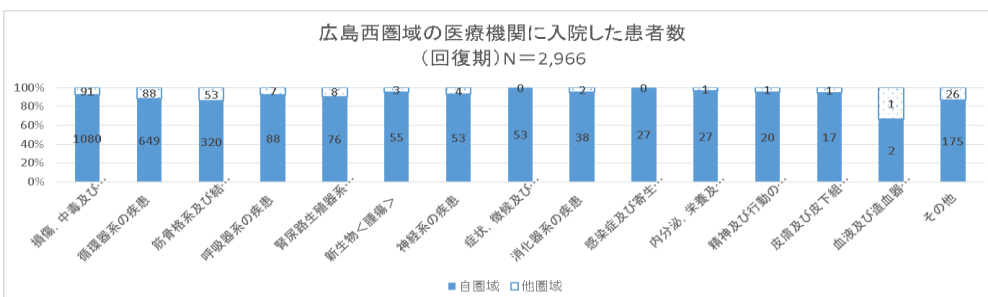
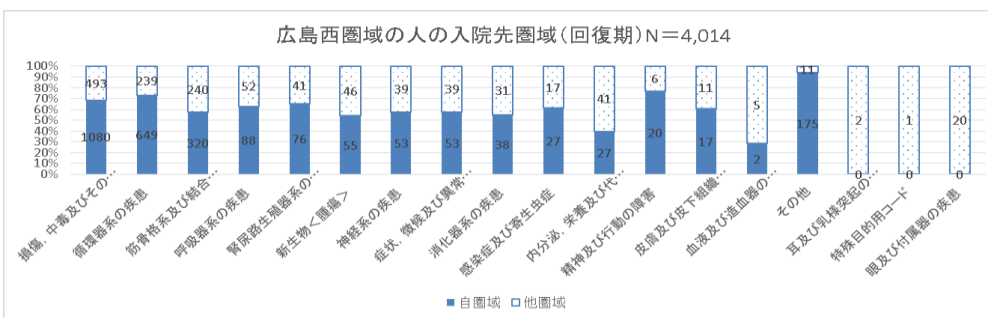
医療需要は2035年まで増加する見込みである一方で、生産年齢人口の減少に伴い医療人材の確保が困難になっている。

また、2026年（令和6年）から医師の時間外規制が開始され、医師の働き方改革への対応を着実に進める必要がある。

【高度急性期・急性期】



【回復期】



広島西圏域の人の入院先圏域は、レセプトデータにより住所地在広島西圏域の人の入院した医療機関の所在地を広島西圏域とその他の圏域に分けたもの
 広島西圏域の医療機関に入院した患者数は、レセプトデータにより広島西圏域の医療機関に入院した人の住所地在広島西圏域とその他の圏域に分けたもの

医療・介護・保健データ総合分析システムによる分析(令和2年度データ)

③ 自施設の現状

当院は、広島西医療圏において、がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能及び、神経・筋難病、重症心身障害児（者）の政策医療を担っている。令和3年10月より人工透析センターを開設し、透析導入や管理する患者が増えている。また、広島西医療圏の中核病院として、地域医療支援病院、災害拠点病院、救急告知病院、へき地医療拠点病院、難病医療拠点病院等の指定医療機関であり、地域社会に必要とされる医療を提供している

神経・筋難病、重症心身障害児（者）については、長期入院患者のみならずレスパイト入院等も含め幅広いサービスを提供している。

在宅関連については、平成26年5月に在宅療養後方支援病院の施設基準を取得し、市・医師会・在宅医療担当医・地域包括支援センター等と連携して、療養している患者や家族が安心して自宅で暮らせるように支援している。また、健診・人間ドックの受け入れ等、地域住民の疾病予防ならびに健康増進に努めている。

「患者さんと共に」が当院の理念であり、高度な医療は元より地域に求められる一般急性期医療、社会に求められる政策医療の両面において、良質で安全な医療を安定的かつ継続的に提供可能とするために注力している。

日々、医療の質の向上のため研鑽をし、患者さんのためによりよい医療を提供することを使命と考えている。

【当院の診療実績等】

○届出入院基本料	一般入院基本料	7 : 1	150床
	障害入院基本料	7 : 1	290床
	計		440床

○平均在院日数 17.2日（令和3年度実績：障害病棟除く）

○病床稼働率 84.2% 一般（令和3年度実績）
90.8% 障害（令和3年度実績）

○救急医療 救急搬送受入件数 年間 1,108件（令和3年度実績）

○災害医療 DMATを保有し、平成26年 広島市豪雨土砂災害に派遣した。

○新興感染症等への対応

- ・神経・筋難病、重症心身障害児（者）のコロナ病床を確保し受入れ。
（コロナ病床1床、疑い病床1床、準備室2床を確保）
- ・コロナウイルス感染後の患者受入れ等の後方支援。
- ・東京・大阪方面の病院への医師、看護師の派遣。
- ・発熱外来。
- ・集団接種。
- ・外部職域接種への援助・協力。

④ 自施設の課題

在宅療養後方支援病院としては、登録患者（8医療機関）60名（令和5年1月現在）であるが、当機能の更なる充実を図る必要がある。

地域完結型の医療を提供するためには、強固な病診連携が必要となってくる。そのため、当院が中心となり在宅医療推進委員会等の開催により、地域の在宅支援施設等の負担軽減等を検討していく必要がある。

当院では、ポストアキュートの患者も多く存在しており、転院先が乏しい当医療圏のニーズに応じていくために50床を急性期から回復期へ転換し運用しているが、他医療機関（広島総合病院等）からの受入体制の構築をどうしていくか検討していく必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

基本的には、現状の機能（がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能及び、神経・筋難病、重症心身障害児の政策医療）を維持していくとともに、人工透析センターを活用することにより地域の人工透析患者対応や血液浄化療法等に貢献する。

また、在宅医療に関しては、在宅療養後方支援病院の施設基準を取得している。今後も市・医師会・在宅医療担当医・地域包括支援センター等との連携を更に強化し、安心して自宅で暮らせるように支援していく。

② 今後持つべき病床機能

筋ジスを含む神経・筋難病患者に対する医療については、広島西医療圏のみならず県内外から広く患者を受け入れており、拠点病院として早期診断・レスパイトから長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。

重症心身障害児（者）に対する医療については、広島西医療圏のみならず県内外から広く患者を受け入れており、今後は、ポストNICUへの対応（検討）も含めレスパイトから長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を維持する。

一般（急性期）については、広島西医療圏において、がん、筋骨格疾患、血液・造血器疾患の急性期の医療機能を担っており、病床稼働率も84.2%（令和3年度実績）となっているため、今後も急性期病棟は現状の150床を維持する。

③ 新興感染症等対応について

神経・筋難病、重症心身障害児（者）の受入れに対応する。

④ 働き方改革への対応について

当院は、A水準のままでも現行の医療提供体制を確保できる。

⑤ 建物の建替え、改修、高額医療機器の購入について

令和5年5月にMRIを更新予定（共同利用有）。

⑥ その他見直すべき点

特になし。現状の診療体制を今後も維持していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～⑥を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (令和4年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	150		150
回復期	50		50
慢性期	240		240
(合計)	440		440

<年次スケジュール（記載イメージ）>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2022年度			<div style="display: inline-block; border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-right: 10px;">2年間でプラン（対応方針）の策定や見直し</div> <div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 5px;">保健医療計画見直し</div>
2023年度			
2024年度			<div style="display: inline-block; background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-right: 10px;">第8次保健医療計画</div> <div style="display: inline-block; background-color: #90ee90; padding: 5px;">医師の働き方改革</div>
2025年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：一般 90% 障害 93%
- ・ 手術件数：1,000件/年
- ・ 紹介率：90%
- ・ 逆紹介率：120%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率：50%以内
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.1%

※国立病院機構本部で負担している研究研修費は含まない。

その他

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

廿日市記念病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	社会医療法人 清風会 廿日市記念病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	126床
・高度急性期	0床
・急性期	24床
・回復期	60床
・慢性期	42床
・休床	0床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	126床
・高度急性期	0床
・急性期	24床
・回復期	60床
・慢性期	42床
・休床	0床
職員数(令和5年3月1日現在)	医師(常勤6)、薬剤師(常勤3)、看護師(常勤56)、療法士(常勤45)ほか
現在(令和5年2月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<p>《入院》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア病棟(入院料2、在院日数42.1日、稼働率76.2%) ・回復期リハビリ病棟(入院料1、在院日数89.4日、稼働率84.6%) ・療養病棟(入院料1、在院日数388.4日、稼働率84.2%) <p>《外来》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日平均29.7名(うち初診3.2)、時間外・休日：平均4.8名/日
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん(緩和ケア)、脳卒中(急性期治療後のリハビリテーション)、在宅医療(訪問リハビリ、通所リハビリ)を担う
現在(令和5年3月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期治療後の患者受入れ、発熱外来対応、ワクチン接種など
現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	圏域および隣接する広島市佐伯区の医療機関と連携し、主にリハビリテーション、終末期医療(緩和ケア)を担う
現在(令和5年3月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療計画、地域構想において回復期機能の不足が挙げられているが、現状の病床数や体制を維持すべきか否か、検討が必要 ・地域包括ケア病床の稼働の検討 ・圏域で唯一の緩和ケア病棟を有するが、在宅緩和ケアに取り組むに際する人員の確保
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・脳疾患を中心とする急性期治療後のリハビリテーション ・地域における終末期医療(緩和ケア) ・在宅医療(訪問リハビリ、通所リハビリ)
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん(緩和ケア)の充実、在宅医療の充実
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	急性期治療後の患者受入れ、発熱外来対応、ワクチン接種など
R7年(2025)の他機関との連携	圏域および隣接する広島市佐伯区の医療機関と連携し、主にリハビリテーション、終末期医療(緩和ケア)を担う
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A水準での対応を予定 ・医療提供体制の確保、機能充実に向けた従事者の確保
建物の建替え、改修予定	・建替え、改修の予定なし
高額医療機器の購入	・MRIの更新を計画
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	<ul style="list-style-type: none"> ・従事者の確保(医師、看護師、療法士など) ・自院の特徴を活かした地域症例検討や従事者研修会の開催

アマノリハビリテーション病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人ハートフル アマノリハビリテーション病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	120床
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	120床
・慢性期	
・休床	
職員数(令和 5年 3月 1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 9人、非常勤 1.5人(総20人) ・薬剤師 常勤 3人、非常勤 0人(総3人) ・看護師 常勤 62人、非常勤 8.2人(総73人) ・准看護師 常勤 12人、非常勤 1.3人(総14人) ・介護福祉士 常勤 11人、非常勤 1.0人(総13人) ・介護士 常勤 4人、(総4人) ・看護助手 非常勤 1.6人(総2人) ・診療放射線技師 常勤 2名、非常勤 0.3人(総3人) ・理学療法士 常勤 46人、非常勤 0.1人(総47人) ・作業療法士 常勤 22人、非常勤 0.1人(総23人) ・言語聴覚士 常勤 8人、非常勤 0.3人(総9人) ・社会福祉士 常勤 4人、非常勤 0.4人(総5人) ・精神保健福祉士 常勤 2人、非常勤 0.4人(総3人) ・相談員 常勤 1人 ・管理栄養士 常勤 2人 ・栄養士 常勤 4人 ・調理師 常勤 2人 ・調理員 常勤 3人 非常勤 4.3人(総12人) ・総務事務 常勤 12人 非常勤 2.2人(総15人) ・医事 常勤 8人 非常勤 4.4人(総14人) ・ドライバー 非常勤 3人 ・調剤助手 常勤 1人 ・臨床工学技士 常勤 1人 ・その他 常勤 1人 非常勤 1.2人(総3人) <p><その他, スポーツトレーナー、リハビリ補助 等> 総数 278人</p>
現在(令和 5年 3月 1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟毎(届出入院基本料, 平均在院日数※1, 病床稼働率※2など) 入院基本料 件数 【2階病棟】 19,979(回復期18,094+療養1,885) (52.02日※) (91.23%) 【3階西病棟】 9,832(回復期8,908+療養924) (50.49日※) (86.89%) 【3階東病棟】 10,133(回復期9,267+療養866) (50.95日※) (95.73%) <p style="text-align: right;">※在院日数は直近3か月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設毎(休日に受診した患者延べ数, 夜間時間外に受診した患者延べ数, 救急車の受入れ件数など) ・休日に受診した患者延べ数 43人 ・夜間時間外に受診した患者延べ数 35人 ・救急車の受入れ件数 12人 <p>※1 平均在院日数=在棟患者延べ数(年間)/((新規入棟患者数(年間)+退棟患者数(年間))/2)</p> <p>※2 稼働率=在棟患者延べ数(年間)/(稼働病床数*365(稼働日数))</p>
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	新型コロナウイルスのPCR検査(発熱外来等)、アフターコロナの患者受け入れなど

現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	圏域のみでなく、広島市内、岩国市の医療センターなど、急性期を脱した患者の受入れ。主に回復期を担っている 広島市内 16病院 その他3件 西部圏域 4病院 その他9件 岩国医療センター 呉医療センター 等
現在(令和5年3月1日現在)の自施設の課題	職員の確保、施設の老朽化、水道光熱費、材料等高騰による経費の増大など。 現在構想中の広島市内の病院再編に伴い、回復期病床が増える見込みであることから、紹介患者の減少は避けられないと考えている。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・JA広島総合病院のみでは対応しきれない、脊椎疾患への対応を中心とした医療の提供体制を新たに構築していく。 ・地域における回復期機能の一翼を担う。 ・退院後も在宅を中心とした、医療をグループで提供する。 ・併せて法人が有する各施設を活用し、地域の介護・福祉事業や障がい者支援事業の一翼も担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・JA広島総合病院は、圏域内の高度急性期を継続して担ってほしい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療の体制充実をはかる。
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	従来通りの対応を継続していく(発熱外来、アフターコロナの受入等)。
R7年(2025)の他機関との連携	主に回復期を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A水準の予定である。 ・年々医師確保に困難な状態であり、何か対策を求めたい。
建物の建替え、改修予定	現在の陽光台から串戸5丁目に新築移転する病院は本年3月に着工、2025年度には従来の回復期・地域包括病棟を有するリハビリテーション病院に脊椎外科の手術機能を付加した病院として稼働する予定
高額医療機器の購入	新病院に設置する手術室に必要な高額医療機器を購入する また新築時はMRIを導入し、併せて、老朽化しているCTも更新する
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	職員の確保(特に医師)に課題があり。

大野浦病院・診療所(クリニック) 2025プラン

令和5年2月作成

項目	
病院名	医療法人社団明和会 大野浦病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	34床
・慢性期	86床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	120床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	34床
・慢性期	86床
・休床	
職員数(令和5年 1月 1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 3人, 非常勤 5.5人 ・看護師 常勤 40人, 非常勤 5.5人 ・薬剤師 常勤 1人 非常勤 1.0人
現在(令和5年1月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・回復期リハビリテーション病棟 (入院基本料1) 平均在院日数 63日 病床稼働率 92.8% ・医療療養型病床 (入院基本料1) 平均在院日数 192日 病床稼働率 93.1%
現在(令和5年1月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中治療後のリハビリテーション ・糖尿病の継続治療 (当院で診療可能な範囲で対応、範囲を超える場合は専門の連携医療機関へ速やかに紹介)
現在(令和5年1月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期治療後の療養及びリハビリテーション
現在(令和5年1月1日現在)の他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期(JA広島総合病院、広島西医療センター、岩国医療センター等)の治療後の継続加療(療養)及びリハビリを実施
現在(令和5年1月1日現在)の自施設の課題	急性期医療機関の在院日数短縮が進められる環境下で、医療提供の質向上、職員のスキル向上が不可欠。
R7年(2025)において地域で担う役割	急性期後の療養、リハビリテーションの提供、在宅への復帰支援。急性期非該当患者の入院受け入れ。オンライン診療
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・患者情報の精度向上 ・患者、家族の要望に沿った退院先の決定 (自己決定の支援)
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	当院で診療可能な範囲で対応、範囲を超える場合は連携医療機関(専門)へ速やかに紹介
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	感染症によるADL低下等、感染後の対応を実施、在宅復帰支援
R7年(2025)の他機関との連携	急性期、慢性期、在宅診療、介護事業者等 幅広く連携
R6(2024)からの働き方改革への対応について	A水準、対応済み
建物の建替え, 改修予定	建替え予定は当面なし
高額医療機器の購入	購入予定は当面なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・連携強化のためには他医療機関機能変更等は早期に情報提供頂きたい。

佐伯中央病院 2025プラン

令和5年1月作成

項目	
病院名	医療法人社団貴和会 佐伯中央病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	38
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	38
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年1月31日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 3人, 非常勤 2.9人 ・看護師 常勤 18人, 非常勤 2.8人 ・薬剤師 常勤 2人 ・理学療法士 常勤 5人
現在(令和5年1月31日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病棟入院料1 平均在院日数 36.31日, 病床稼働率 77.3% ・休日に受診した患者 123名 夜間時間外に受診した患者 34名 救急車の受入れ件数 50件
現在(令和5年1月31日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・糖尿病、心疾患、高血圧、在宅医療
現在(令和5年1月31日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	・発熱外来、自宅療養者(施設入所者)に対する医療の提供、後方支援、
現在(令和5年1月31日現在)の他機関との連携	・1次救急を担い、救急は他院へ紹介している。紹介した患者を自院の地域包括ケア病棟へ受入れ
現在(令和5年1月31日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人口減少による患者減少 ・医師、職員の雇用 ・地域で不足している、在宅、施設からの急性増悪した高齢患者の受入れ
R7年(2025)において地域で担う役割	・1次救急を担い、近隣施設・地域の患者さんの受入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・JA広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・糖尿病、心疾患、高血圧、在宅医療
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・発熱外来、自宅療養者(施設入所者)に対する医療の提供、後方支援、
R7年(2025)の他機関との連携	・1次救急を担い、救急は他院へ紹介している。紹介した患者を自院の地域包括ケア病棟へ受入れ
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・宿日直届 ・医師の確保
建物の建替え, 改修予定	・未定
高額医療機器の購入	・未定

今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など

・医師、看護師等の職員確保

阿品土谷病院 2025プラン

令和5年4月作成

項目	
病院名	医療法人あかね会 阿品土谷病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	214床
将	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	214床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	214床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	214床
・休床	
職員数(令和 5年 4 月 3日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 8人, 非常勤 3人 ・看護師 常勤 107人, 非常勤 3人 薬剤師 常勤5人非常勤1人 リハビリ 4人
現在(令和5年 4月 3日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料:療養病棟入院基本料1 病棟毎平均在院日数:A2 384日 A3W 350日 A3E 348日 B1 250日 B2 258日 病床稼働率: A2 85.4% A3W 87.8% A3E 90.6% B1 83.6% B2 82.1% 休日に受診した患者延べ数 209人 夜間時間外に受診した受診した患者延べ数 16人 救急車の受け入れ件数 9人
現在(令和5年 4月 3日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療の一部を担っている。
現在(令和5年 4月 3日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れている。
現在(令和 5年 4月3日現在)の他機関との連携	急性期を脱した患者については一部受け入れている。
現在(令和 5年4月 3日現在)の自施設の課題	急性期医療を受けた後の患者の受け皿となるよう対処している。
R7年(2025)において地域で担う役割	急性期医療機関よりの受け入れる役割を担う。 ・在宅等からの急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	広島総合病院は、圏域内の高度急性期を担ってほしい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療を拡大していきたい。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れる役割を担う。
R7年(2025)の他機関との連携	急性期を脱した患者の一部の受け入れを担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療提供体制の確保のために医師は確保に努める。
建物の建替え, 改修予定	エレベーターの改修 受水槽の改修
高額医療機器の購入	特になし。

今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など

医師の確保

廿日市野村病院 2025プラン

令和5年2月作成

項目	
病院名	廿日市野村病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	102床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	102床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	102床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	102床
・休床	
職員数(令和5年2月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤2人, 非常勤3.7人・薬剤師 常勤3人, 非常勤0.8人・看護師 常勤21人, 非常勤6.1人・准看護師 常勤16人, 非常勤1.1人・看護補助 常勤20人, 非常勤1.3人・診療放射線技師 常勤1人・臨床検査技師 常勤1人, 非常勤1.0人・管理栄養士 常勤1人, 非常勤0.2人・理学療法士 常勤2名・言語聴覚士 非常勤0.1人
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和3年度実績)	別紙のとおり
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・1次救急を担い、当院に対応できる疾患においては慢性期病院だが緊急入院も受け入れている。 ・休日、夜間以外の精神科救急(外来対応)の受け入れ ・物忘れ外来、多領域の精神科(児童、思春期、発達障害、アルコール依存症など含む)対応 ・神経難病を主体とした神経内科外来、特殊疾患病棟があることから圏域内外から紹介を受ける。また、精神的な問題で生徒の相談で学校との連携や子育て世代はネウボラなどと連携、生活福祉課や障害福祉課から相談あり。 ・精神科疾患で入院を要す場合、疾患に応じて適切な病院へ紹介、保健所から一次措置診察依頼。 ・廿日市市認知症初期集中支援チームを有するため、地域包括支援センターや民生委員、他医療機関などから相談を受け、対応困難ケースを様々な機関と連携して対応 ・災害時、DPAT派遣 ・へき地医療支援として吉和診療所から精神的な問題で困ることがあれば、いつでも電話などで対応方法や処方提案などを無料で提供している。 ・訪問診療依頼は、可能な範囲で行なう。みなしの訪問看護を行なっている。 ・在宅診療を行なっている診療所からの入院の受け入れ、当院併設施設や関連施設で緊急ショートステイ(介護)受け入れ。
現在(令和5年2月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来及び外来治療、必要に応じて可能なときに往診、訪問診療 ・急性期を脱し、回復期へ行けない患者を受け入れる。また回復期治療を経ても在宅復帰できない患者を受け入れている。 ・病院で発生した患者は自院で対応。関連施設で発生した患者も施設内での治療や当院入院対応。
現在(令和5年2月1日現在)の他機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期病院から在宅系へ行けないケースの入院受け入れ。 ・診療所からの入院受け入れ。 ・精神疾患関係はとくに他医療機関、行政、学校、大学、企業からの外来診療依頼が多い。こども療育センターや小児科から年齢移行期の引継ぎの依頼あり。 ・回復期に行けない患者、回復期を経て在宅復帰できない患者の受け入れ、在宅復帰、在宅系施設、介護施設へつなぐ ・市や市民センター、社協、大学、各団体から依頼を受け、講義、講演を行なう。 ・コロナ禍で、看護実習の受け入れ先がないなか、日本赤十字広島看護大学、岩国YMCA国際医療福祉専門学校から依頼を受けて、実習を行なっている。

現在(令和5年2月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・フルタイムで働ける医師の不足 ・在宅医療や救急医療に関心を持つ医師の不足 ・地域で不足している亜急性期医療を担う機能を整備したいが、医師の上記状況や現在の物価や診療報酬体系ではコメディカルスタッフを増員する資金力不足
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療を行なっている診療所と連携し、在宅等から急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担う。 ・認知症や精神疾患、神経疾患においては、引き続き、地域だけでなく広域に対応する。 ・在宅診療と介護等の連携においては橋渡し役として今後も活動していく。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	<ul style="list-style-type: none"> ・JA広島総合病院以外の1次、2次救急病院が少ないため、各病院でできる範囲でもう少し機能を検討すべきと思っている。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	<ul style="list-style-type: none"> ・5疾病のうち精神疾患を担い、5事業のうち災害医療としてDPAT人材を継続して育てる。 ・在宅医療もできるだけ対応していきたい。 ・糖尿病の外来、入院治療 ・脳卒中後、回復期等受け入れ先がない場合の受け入れ ・がん治療後の経過観察
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	発熱外来、急性期を脱した患者の受け入れ。
R7年(2025)の他機関との連携	現在の状況と同様
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A水準 ・今後、大学病院から当直に来てくださっている医師が多いため、勤務時間の調整で当直医師確保に不安を感じている。
建物の建替え、改修予定	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な工期はまだ未定だが、建て替えを5、6年先と考えている。 ・この1年で電子カルテ導入予定。
高額医療機器の購入	<ul style="list-style-type: none"> ・現在なし ・共同利用はもっと積極的に広報していきたい(MRI、CT)
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	<ul style="list-style-type: none"> ・医師や役職の看護師、介護職の確保に課題あり ・医療療養病床の一部を地域包括ケア病床にしたいと考えているが、人材と実績によるため、今後まだ未定。

【廿日市野村病院】

1 届出入院基本料

施設全体

2病棟
慢性期機能
特殊疾患病棟
入院料1

3病棟
慢性期機能
療養病棟入院
料1

4病棟
慢性期機能
療養病棟入院
料1

34

34

34

2 平均在院日数

①在棟患者延べ数	35,988	12,296	11,802	11,890
②新規入棟患者数	156	26	74	56
③退棟患者数	151	26	71	54
①/((②+③)/2)	234.45	472.92	162.79	216.18

3 病床稼働率

①在投患者延べ数	35,988	12,296	11,802	11,890
②稼働(許可)病床数	102	34	34	34
①/(②*365)	96.7%	99.1%	95.1%	95.8%

4 救急医療

休日に受診した患者延べ数	88
夜間・時間外に受診した患者延べ数	57
救急車の受入れ件数	14

やまと病院 2025プラン

令和5年4月作成

項目	
病院名	医療法人社団親和会 やまと病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	50床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	50床
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	50床
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	50床
・休床	
職員数(令和5年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 3人 ・看護師 常勤 7人, 非常勤 2人 ・准看護師 常勤 8人 ・薬剤師 常勤 1人 ・看護補助者 常勤 6人, 非常勤 3人 ・管理栄養士 常勤 1人 ・診療放射線技師 非常勤 1人 ・理学療法士 非常勤 1人
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料 療養1 療養病棟入院料 ・平均在院日数 287.7日 ・病床稼働率 84.3% ・休日に受診した患者延べ数 0人 ・夜間時間外に受診した患者延べ数 0人 ・救急車の受入れ件数 0人
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	5疾病については、当法人併設の大和橋医院にてCT、MRIによる早期発見、急性期医療機関等への紹介、糖尿病等の生活習慣病については、併設の健康増進施設メッツやまとの活用、訪問看護ステーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護かがやき24、通所リハビリテーションにより他医療機関退院後のフォローをしている。5事業については、大和橋医院にて在宅からの1次救急の受け入れ、近隣の老人入居施設への定期訪問診療を実施している。
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	他医療機関から紹介された医療区分2及び3を中心とした高齢者に対する入院医療を実施しており、他患者への感染を防止するため、入院時に感染の有無を確認している。
現在(令和5年4月1日現在)の他機関との連携	急性期、回復期の後方支援病院として医療療養の機能を担う。
現在(令和5年4月1日現在)の自施設の課題	地域の高齢者の医療需要の減少が予測される中、さらに特色ある医療療養病床の運営に向けた体制の強化を図ること。
R7年(2025)において地域で担う役割	在宅及び高齢者施設等から急性増悪した高齢患者を受け入れる役割を担い、地域における医療療養機能の一翼を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現在、高度急性期医療及び急性期医療(JA広島総合病院)、急性期医療及び回復期医療(広島西医療センター)、認知症医療(メープルヒル病院)、重心・筋ジスを除く慢性期医療(大野浦病院、やまと病院)と医療資源が機能的に活用されている。令和7年の時点では当該体制の維持・向上のため、より一層の連携強化をお願いしたい。
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	現在(令和5年4月1日現在)と同様
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	他医療機関から紹介された医療区分2及び3を中心とした高齢者に対する入院医療を実施しており、他患者への感染を防止するため、入院時に感染の有無を確認したい。
R7年(2025)の他機関との連携	急性期、回復期の後方支援病院として医療療養の機能を担う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・A水準。 ・いわゆる寝当直についての宿日直回数の基準が厳しいため苦慮している。
建物の建替え, 改修予定	・現時点において建替え・改修の予定なし。
高額医療機器の購入	・現時点において予定なし。

今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など

・医師をはじめとする医療従事者の確保に苦慮している。

敬愛病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人北原会 敬愛病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	51
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	51
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	51
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	51
・休床	
職員数(令和4年7月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 1.5人 ・看護師 常勤 27人, 非常勤 0.8人 ・准看護師 常勤 11人, 非常勤 3.2人 ・看護補助者 常勤 17人, 非常勤 1.0人 ・理学療法士 非常勤 0.8人 ・作業療法士 非常勤 0.8人 ・薬剤師 非常勤 2.6人 ・診療放射線技師 非常勤 0.3人 ・管理栄養士 常勤 2人
現在(令和4年3月31日現在), 自施設の担っている診療実績(令和3年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病棟入院料2, 平均在院日数 562.8日, 病床稼働率 90.7% ・精神15対1入院基本料, 平均在院日数 1115日, 病床稼働率 91.6% ・休日に受診した患者延べ数 14人 ・夜間・時間外に受診した患者延べ人数 0人 ・救急車の受入れ件数 0件
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患患者(主に認知症患者)で在宅復帰が難しい患者を積極的に受け入れている。
現在(令和5年3月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	病室及び医療従事者の確保ができなため、受け入れが難しい。
現在(令和5年3月1日現在)の他機関との連携	主に慢性期を担っており、急性期、回復期後の在宅復帰が難しい患者を受け入れている。
現在(令和5年3月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想では療養病床が過剰であったこと、当院の患者層を鑑みた上で令和2年に療養病床51床を介護医療院に転換済。 ・療養病床は医療依存度の高い患者を受け入れることで高い病床稼働率も維持しており、今後も地域医療に貢献していきたい。
R7年(2025)において地域で担う役割	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して慢性期医療を担う。 ・広島西二次保健医療圏において2040年まで1日あたり入院患者数の多い精神及び行動障害の患者を受け入れる。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	急性期、高度急性期を担う医療機関には、専門的な検査及び治療を要する患者の受け入れを継続していただきたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	継続して精神疾患患者(主に認知症患者)で在宅復帰が難しい患者を受け入れる。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	病室及び医療従事者の確保ができなため、受け入れが難しい。
R7年(2025)の他機関との連携	併設施設の敬愛介護医療院と連携し、地域の急性期、回復期医療機関からの紹介患者の受入を行う。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・当院はA水準に該当。 ・今後は現状の医療提供体制の確保のため、他院でも勤務する医師に勤務状況を確認し、対応を図る。
建物の建替え, 改修予定	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年に建物劣化診断を実施し、修繕計画を策定中。 ・修繕により現状の機能を維持していく。
高額医療機器の購入	・購入の予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・自施設内での課題としては建物の老朽化、人員確保の対策を講じることで現状の機能を維持し、今後も地域医療に貢献していきたいと考える。

メープルヒル病院 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団 知仁会 メープルヒル病院
R4.7.1現在の病床数(総数)	48
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	48
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	48
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	48
・休床	
職員数(令和4年10月1日現在)	医師 常勤9人 非常勤9人 看護師 常勤69人 非常勤42人 理学療法士 常勤7人 非常勤7人 作業療法士 常勤8人 非常勤1人 言語聴覚士 常勤1人 薬剤師 常勤1人 非常勤5人
現在(令和4年10月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (R3年度実績)	新館3階 療養病棟入院基本料(看護職員20対1、看護補助20対1) 平均在院日数:329.0日 病棟稼働率:95% 年間外来患者延べ数:9694人 時間外来患者延べ数:145人
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	自院にて発生した新型コロナ患者の治療、コロナ回復患者の受入れ
現在(令和4年10月1日現在)の他機関との連携	急性期病院では、広島総合病院・西医療センターから、回復期では、アマノリハビリテーション病院・大野浦病院から受入っており、慢性期を担っている。
現在(令和4年10月1日現在)の自施設の課題	・今後、地域の人口減少に伴う、医療需要の減少が見込まれ、地方病院のあり方が問われてくる。 ・生産年齢人口の減少等に伴って医療介護人材の確保が困難になっている。
R7年(2025)において地域で担う役割	・身体合併症や行動・心理症状を伴う認知症患者や精神疾患患者を受け入れ、慢性期医療を提供していく
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	急性期、高度急性期を担う他病院との連携を強化していく
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	精神疾患を担う予定
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	急性期を脱した患者を受入れ
R7年(2025)の他機関との連携	主に慢性期を担う
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準 ・医師確保のため他病院との連携強化を検討
建物の建替え, 改修予定	検討中
高額医療機器の購入	検討中
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	地域の医療需要の変化を踏まえて、今後の体制を検討する

重症児・者福祉医療施設 原 2025プラン

令和5年4月作成

項目	
病院名	重症児・者福祉医療施設原
R4.7.1現在の病床数(総数)	60床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	60床
・休床	0床
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	60床
・高度急性期	0床
・急性期	0床
・回復期	0床
・慢性期	60床
・休床	0床
職員数(令和5年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人 非常勤15人 ・事務長 常勤 1人 ・統括看護長 常勤 1人 ・看護主任 常勤 1人 ・看護師 常勤 30人 非常勤 2人 ・理学療法士及び作業療法士、言語聴覚士 常勤6人 ・心理士 常勤1人 ・支援員 常勤 27人 非常勤 1人 ・薬剤師 常勤 1人 非常勤 2人 ・保育士 常勤 3人 ・管理栄養士 常勤 1人 ・相談員 常勤 2人 ・サービス管理責任者 常勤1人 ※1人申請中
(令和4年度実績)	
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	該当なし
現在(令和5年4月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	新型コロナウイルス陽性となり、他の医療機関で入院していた方を症状寛解後、受け入れた実績あり(1件)
現在(令和5年4月1日現在)の他機関との連携	当施設の利用者で急変があり当施設で対応が難しい場合、他の医療機関へお願いする場合があった。
現在(令和5年4月1日現在)の自施設の課題	呼吸器が必要な方の短期入所受け入れ →施設職員が使い慣れていない呼吸器を取り扱うことになるため
R7年(2025)において地域で担う役割	在宅対応が難しくなった重症心身障害児・者の受け入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	予定なし
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	予定なし
R7年(2025)の他機関との連携	特になし
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特になし
建物の建替え、改修予定	・建て替え検討中(時期未定)
高額医療機器の購入	2022年セントラルモニター、ベッドサイドモニター購入
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	呼吸器が必要な方の短期入所受け入れの体制整備

双樹クリニック 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団 清流会 双樹クリニック
R4.7.1現在の病床数(総数)	14床
・高度急性期	
・急性期	14床
・回復期	
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	14床
・高度急性期	
・急性期	14床
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年2月28日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 2人, 非常勤 0.9人 ・看護師(准看護師) 常勤 29人, 非常勤 0.5人 理学療法士 常勤3人 管理栄養士 常勤2人 放射線技士 非常勤0.5人
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている診療実績 (R4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・届出入院基本料:::(診入院)/一般/入院基本1 平均在院日数 30日, 病床稼働率 65% ・休日に受診した患者延べ数 5人, 夜間時間外に受診した患者延べ数 11人, 救急車の受入れ件数 2人
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・特になし
現在(令和5年2月28日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	・隔離室を設置し透析診療を行っている。
現在(令和5年2月28日現在)の他機関との連携	・2次救急を担い, 3次救急はJA広島病院へ。急性期を脱した患者については、リハビリを含め当院で対応。
現在(令和5年2月28日現在)の自施設の課題	・現状、特になし
R7年(2025)において地域で担う役割	・地域における回復期機能の一翼を担う。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・現状どおり
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・現状どおり
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・現状どおり
R7年(2025)の他機関との連携	・現状どおり
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・医師派遣に関して、広大医局と連携する。(宿日直許可申請済み)
建物の建替え, 改修予定	・特になし
高額医療機器の購入	・特になし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・特になし

医療法人社団 江川レディースクリニック 2025プラン

令和5年3月作成

項目	
病院名	医療法人社団 江川レディースクリニック
R4.7.1現在の病床数(総数)	18床
・高度急性期	
・急性期	18床
・回復期	
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18床
・高度急性期	
・急性期	18床
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和5年3月31日現在)	・医師⇒常勤:1人, 非常勤:0.2人 ・看護師⇒常勤:12人, 非常勤:0.5人
現在(令和4年7月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和3年度実績)	・添付資料を参照願います。
現在(令和5年3月31日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・特に担ってない。
現在(令和5年3月31日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	・新型コロナウイルス感染症の急性期を脱した患者を受入れている。
現在(令和5年3月31日現在)の他機関との連携	・万が一の際の対応が困難になることが予想され得る患者は、JA広島総合病院や広大病院などへ紹介させて頂いている。
現在(令和5年3月31日現在)の自施設の課題	・少子化による分娩数の減少が見込まれており、優秀な人材の確保に加え、経営的に採算性が取れるか等の懸念もあるが、電子カルテなどのIT機器の導入や人材が育つ風土作りに力を入れ、より合理的な医療・経営体制が保てるよう整備中。
R7年(2025)において地域で担う役割	・地域における婦人科系疾患、妊婦健診や分娩など思春期から老年期までの女性の一生の健康を見守る受け皿の一翼を担っていく。
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	・地域社会に必要とされる適切な医療体制を保持できるよう、他医療機関との役割分担を明確にししながら、現行通り連携を深めていきたい。
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	・特に担ってはいない。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	・新型コロナウイルス感染症の急性期を脱した患者を受入れている。
R7年(2025)の他機関との連携	・万が一の際の対応が困難になることが予想され得る患者は、JA広島総合病院や広大病院などへ紹介させて頂いている。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	・A水準で宿日直許可取得済み。(令和4年12月2日付け) ・その上で現状の医療提供体制の確保のため、広大医局より宿日直医師等を継続派遣して頂く。
建物の建替え, 改修予定	・現時点での具体的な計画はないが、近い将来における要検討課題である。
高額医療機器の購入	・産婦人科専用の電子カルテを令和5年度中に導入する見込み。 ・購入に合わせ検査会社との検査データの受け渡し連携も行う見込み。
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	・政策面での大胆な少子化対策に期待したい。

【江川レディースクリニック】

1 届出入院基本料

施設全体
有床診療所入院基本料

2 平均在院日数

①在棟患者延べ数	5,823
②新規入棟患者数	1,005
③退棟患者数	986
①/((②+③)/2)	5.85

3 病床稼働率

①在投患者延べ数	5,823
②稼働(許可)病床数	18
①/(②*365)	88.6%

4 救急医療

休日に受診した患者延べ数	38
夜間・時間外に受診した患者延べ数	86
救急車の受入れ件数	*

○個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「*」で秘匿している項目があります。

長谷川整形外科クリニック 2025プラン

令和5年4月作成

項目	
病院名	医療法人 長谷川整形外科
R4.7.1現在の病床数(総数)	18
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	18
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18
・高度急性期	
・急性期	
・回復期	
・慢性期	
・休床	18
職員数(令和5年4月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人 ・看護師 常勤 2人, 非常勤 2人 ・薬剤師 常勤 1人
現在(令和4年7月1日現在), 自施設の担っている診療実績(3年度実績)	有床診療所入院基本料 ※休床中 休日に受診した患者延べ数 18人 夜間時間外に受診した患者延べ数 6人 救急車の受入れ件数 12件
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅医療を担っている。
現在(令和5年4月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	対応していない。
現在(令和5年4月1日現在)の他機関との連携	救急指定病院ではないが, 一次救急まで対応
現在(令和5年4月1日現在)の自施設の課題	地域の高齢化が進み患者数が減少。また, 医師も高齢になり入院病床は休床している。
R7年(2025)において地域で担う役割	大野地域内の軽傷の救急患者は可能な限り受入れ
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	在宅訪問診療は可能な限り行っていく。
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	受入れ予定はない。
R7年(2025)の他機関との連携	2次, 3次救急はJA広島総合病院, 広島西医療センター病院へ紹介。
R6(2024)からの働き方改革への対応について	—
建物の建替え, 改修予定	予定なし
高額医療機器の購入	予定なし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	特になし

津村眼科 2025プラン

令和4年11月作成

項目	
病院名	津村眼科
R4.7.1現在の病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	4
・回復期	
・慢性期	
・休床	
R7.7.1現在の予定病床数(総数)	
・高度急性期	
・急性期	4
・回復期	
・慢性期	
・休床	
職員数(令和4年11月14日現在)	・医師 常勤 1人 ・看護師 常勤 3人
現在(令和4年11月14日現在), 自施設の担っている診療実績(4年度実績)	1年間入院はなかった。
現在(令和4年11月14日現在), 自施設の担っている政策医療	特になし
現在(令和4年11月14日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	特になし
現在(令和4年11月14日現在)の他機関との連携	特になし
現在(令和4年11月14日現在)の自施設の課題	入院での手術希望の患者がいない
R7年(2025)において地域で担う役割	特になし
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	特になし
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	特になし
R7年(2025)の他機関との連携	特になし
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特になし。
建物の建替え, 改修予定	特になし
高額医療機器の購入	特になし
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	無床診療所への転換の可能性。